

林買渡證書ヲ偽造シ之ヲ佐倉區裁判所ニ呈出シテ賣買ノ登記ヲ受ケテ山林ヲ騙取シタリト云フニ在ルモ右ノ賣買登記ハ賣買ノ事實ヲ公示スル方法ニ外ナラスシテ其目的物タル山林ノ所有權ヲ移轉スルモノニアラス故ニ原院ハ所有權移轉ノ効ヲ生スヘキ賣買ノ合意アリシコトヲ認メス其賣買ヲ證明スルハキ證書ハ偽造ナリト認ムル已上ハ山林ノ所有權ハ初ヨリ移動スルコトナク依然木村「キヨ」ニ存スルヲ以テ騙取ノ事實アルコトナクハ無罪ヲ言渡スヘキニ原院ハ山林賣買ノ登記ヲ受ケタルヲ以テ直チニ山林ヲ騙取シタルモノトシテ刑法第三百九十九條第一項第三百九十四條ニ開擬シタルハ擬律錯誤ノ裁判タルヲ免カレヌ已ニ此ノ騙取ニ基キ山林騙取ノ點ハ罪トナラサルモノトシテ原判決ヲ破毀スルニテ說明スル已上ハ山林詐取ノ點ニ對スル論旨即ち辯明書第四ニ特ニ說明スルノ要ニテ其第六條原判決カ斷罪ノ資料トナシタル木村重太郎ノ上申書布留川多重郎關谷健太郎ノ上申書ハ刑事證據ハ効力ヲ爲スヘキ文書ニアラス依テ原院カ之ヲ有罪ノ證據トナシタルハ不法ナルヲ云フニ在レトモ刑事訴訟法中右等ノ書面ヲ證據トシテ採用スルハ付制限シタル規定アルコトナクハ原判決ハ本論旨ノ如キ不法アルコトナシ其第七條原判決ノ理由中「翌十九日被告小三郎ハ右偽造ノ金圓借用證ヲ携帶シ多喜司方ニ立越シ同人ニ交付シテ金圓ヲ受取ラントナシタル處多喜司方ニ於テハ借主本人「喜司」同道ノ上ニアラサレハ金圓相渡シ難シト云フニ依リ被告小三郎ハ歸宅ニ止金員「小三郎」相渡シ與レ度旨ヲ記載スル口演問題スル明治廿五年十月十九日付木村「キヨ」名義ノ書面ヲ偽造シ「喜司」名義ノ書面ヲ前掲同書面實印ヲ捺捺シ之

ヲ携ヘ同日再ヒ多喜司方ニ到リ該偽造書ヲ同人ニ交付シレト認認定ニ依リハ原院モ口演ト題スル文書ヲ偽造行使シタル所爲ハ小三郎單獨ノ行爲ナルコトヲ認メタリト云フハサルヘカラス然ルニ擬律ノ部ニ至リテ被告書偽造行使ノ責任ヲ上告人關松宗悦ニ科シタルハ違法ハ似ト云フキ在レトモ原判決理由區區冒頭合議被告三名ハ共謀シテ云々木村「キヨ」ノ山林ヲ騙取シ爾同人ノ名義ヲ以テ他道リ金員ヲ取出サンコトヲ企テ云々トアレハ其金員ヲ取出スルハ所共謀ノ行爲ハ皆被告等ノ共謀ニ出テタルモノト認メタルハ明カナレハ本論旨ハ原判決文ノ誤解ニ基キモノナルハ上告違法ノ理由ナシ其第八條第一審ノ公判始末書ニ記載アル證人鈴木卯之助今井德太郎他數名ノ證人ハ果シテ本件ニ付證人タルノ資格アルキ否キ確定セサルモノナリ何トナレハ右始末書中ニハ證人ニ於テ刑事訴訟法第百廿三條ノ干係ナキ旨ヲ答辯シタル事跡ナキヲ以テナリ故ニ原院カ輒ク之ヲ證言ノ効アルモノトシテ右始末書ヲ採テ證據トナシタルハ違法ナリト云フニ在レトモ右始末書ヲ見ルニ爰ニ證人ノ資格ヲ質シ宣誓セシムルトアレハ刑事訴訟法第百廿三條ノ各項ニ付訊問シタル處アリテ後宣誓セシメテ證述ヲ聽クニ差支方キヲ認メタルモノナルコト明カナレハ假令同條ニ關係ナキ旨ヲ答辯ヲ記載シアラサルモ證人ノ資格有無ノ確定セサルモノト云フヘカラサルヲ以テ本論旨ハ上告違法ノ理由ナシ其第九條原判決文ニ「之ヲ法律ニ照スニ右私印盜用ノ所爲ハ刑法第二百八條第二項第二百十二條ニ該リトアリテ刑法第二百八條第三項ノ適用ヲ欠キタルハ法律理由區明示ヲ爲サレハ違法ノ裁判ナリ何トナレハ單ニ同條第三項而已ヲ揭シテ時々如何私印盜用私書偽造行使詐欺取財事件

ナル刑期ヨリ一等ヲ減スルヤヲ知ルニ由ナケレハナリト云フニ在レトモ既ニ第二百八條第二項ヲ明示セハ同項ニ若シ他人ノ印影ヲ濫用シタル者ハ一等ヲ減ストアラハ其第一項ノ刑ヨリ一等ヲ減スルモノナルコト明白ニシテ一モ疑點ノ存スルモノナキヲ以テ原判決ハ法律理由ノ明示ヲ欠キタル不法アリト云フヘカラス

右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ

原判決擬律ノ部分ヲ破毀シ直チニ左ノ如ク判決ス

今 井 小 三 郎

今 井 菊 松

野 口 宗 悅

原院ノ認定シタル事實ヲ法律ニ照スニ被告等共謀シテ木村「キヨ」所有ノ阿蘇村米本千百八十三番字島ヶ谷山林一段四畝廿六歩九厘ノ地所ヲ騙取シタリトノ點ハ刑事訴訟法第二百二十四條ニ依リ無罪押収ノ書類中借用證書賣渡證書口演ト題スル書面各一通ハ刑法第四十三條第一號ニ依リ之ヲ沒收ス其他ハ原判決通り

明治廿八年十一月二十五日大法院審判部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

裁判長 判事 原 田 種 成 判事 元 忠

同 島 田 正 章 同 岡 村 爲 藏

同 永 井 岩 之 丞 同 川 目 亭 一

判 決 要 旨

強盜罪の物體は奪取せられたる人の所有物たるを要せず

說 明

強盜罪の物體たるには他人の占有權内に存在する有形動産たるを要す故に其占有に存る物件か他人の所有物たるを否とを論せず苟くも不正に領得するの意思を以て暴行脅迫を手段とし其占有せる有形動産を奪取する以上は該犯罪構成に欠くる所なし

強盜事件

明治廿八年一月三二號
全年十二月五日判決

被告人 金 子 新 平

同 石 坂 紋 藏

右強盜被告事件ニ付明治廿八年十月二日東京控訴院ニ於テ前橋地方裁判所ノ判決ニ對スル第一審裁判所檢事福鎌芳隆ノ控訴及ヒ被告共ノ附帶控訴ヲ審理シ末原判決ハ之ヲ取消ス被告新平ヲ重懲役九年ニ處ス但前發ノ刑重禁錮十月罰金六圓監視六月ヲ通算ス被告人紋藏ヲ輕懲役六年ニ處ス押収ノ黒唐縮緬襟卷一筋ハ坂井常吉ニ違付ス公訴裁判費用金十圓六十

私印盗用私書偽造行使詐取財事件

強盜事件

八錢ハ被告兩名ノ連帶負擔トス被告人兩名ノ附帶控訴ヲ棄却スト言渡シタル第二審判決ヲ不法トシ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シタリ

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ以テ審判スルコト左ノ如シ
被告金子新平カ上告趣意書ノ要旨ハ被告人ノ所爲ハ曾テ被告ヨリ貸與シ置キタル金圓ヲ受取りタルモノニシテ正當ノ權利ヲ行用シタルニ過キス然ルニ原院ニ於テ強盜ノ所爲トシ有罪ノ裁判ヲ言渡サレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ原院ノ認メタル事實ヲ批難スルニ過キサル論告ニシテ違法上告ノ理由ナシ

被告石坂救藏カ上告趣意書ノ要旨ハ金子新平カ坂井常吉等ヨリ其所持金ヲ預リ居ル前原男女藏ニ隠シ常吉ヘノ貸金返済スヘキ旨ヲ申出シタルモ男女藏ニ於テ應セズ互ニ口論ヲ爲サレタル模様ニ付上告人ハ其際現場ニ居合セタルヲ以テ其仲裁ヲ爲シ男女藏ヨリ新平ヘ其貸金一圓五十錢ヲ返却セシメタリ前述べ事實ニ對シ原院カ強盜罪ヲ以テ處斷セラレシハ誤認ノ亦太シキ不法ノ裁判ナリト云フニ在テ是久原院カ認メタル事實ヲ批難スルニ過キサルヲ以テ是亦違法上告ノ理由ナシ

被告金子新平カ上告辯明書ノ第一點ハ明治廿七年十一月七日恐喝取財ノ罪ヲ以テ前橋地方裁判所ニ於テ重禁錮六月監視六月罰金五圓ニ言渡シ置ケ又同月廿六日前前罪等テ同裁判所ニ於テ重禁錮十月監視六月罰金十圓ニ處津シ置ケ當時上告人ナル強盜事件前前判決前ニ發覺シタルヲ以テ明治二十七年十一月七日ノ被告判ヨリ通算スヘキモノナリト云フニ

明治廿七年十一月七日恐喝取財ノ罪ヲ以テ前橋地方裁判所ニ於テ重禁錮六月監視六月罰金五圓ニ言渡シ置ケ又同月廿六日前前罪等テ同裁判所ニ於テ重禁錮十月監視六月罰金十圓ニ處津シ置ケ當時上告人ナル強盜事件前前判決前ニ發覺シタルヲ以テ明治二十七年十一月七日ノ被告判ヨリ通算スヘキモノナリト云フニ

如キ違法アルコトナシ
其第三點ハ刑罰ノ輕重ニ關シテ被告ノ所爲ハ曾テ被告ヨリ貸與シ置キタル金圓ヲ受取りタルモノニシテ正當ノ權利ヲ行用シタルニ過キス然ルニ原院ニ於テ強盜ノ所爲トシ有罪ノ裁判ヲ言渡サレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ原院ノ認メタル事實ヲ批難スルニ過キサル論告ニシテ違法上告ノ理由ナシ

被告金子新平辯護士高橋庄之助ノ上告趣意擴張書第一點ハ原院ニ於テ被告ノ所爲ヲ二個ノ犯罪トセラレタルモ原院カ認メタル事實自体カ一罪ナルコトハ原院ノ事實理由ニ依ルモ前後其意思及ヒ其所爲ノ一貫セルコト明カナルヲ以テ知ルヘシ斯ク明瞭ナル一所爲ヲ二罪トシテ問擬セラレタルハ不法ナリト云フニ在レトモ原院カ認メタル事實ヲ認定シ批難スルモノニシテ適法上告ノ理由トナラス其第二點ノ要旨ハ原院文中被告ノ内藏ニ於テ前顯現場ニ居合セタル同村同強盜事件

大宇前原男女藏カ嘗初ヨリ金錢ヲ預リタルコトヲ知リ居ルヨリ云々トアリ紋藏ニ於テハ當
 初ヨリ男女藏カ坂非常吉ノ金錢ヲ預リ居タルコトヲ知シ居リ紋藏カ男女藏ニ對シ脅迫
 シタルカノ如ク見ユレトモ被告新平ニ於テハ果ソ脅迫ヲ爲スニ付キ同意シタルヤ否ヤ一見
 視ルヘキモノナシ紋藏ハ何人ト共謀シタリシヤ事實不明ニシテ其共謀人ハ果シテ被告新平ナ
 ルヤ又他ニアルヤ了解ニ困シマサルヲ得ス故ニ原判決ハ事實ヲ明示セサル不法アリト云フ
 ニ在レトモ原判文ニ「被告人新平紋藏ハ」トアル文詞ハ「云々其場ニ於テ男女藏ヲ脅迫シテ
 該金ヲ強取センコトヲ共謀シ」トアルニ至ルマテ管到シタル文法ナルコト明カナルカ故ニ
 其共謀ヲ爲シタルハ新平紋藏ノ兩人タルコト亦タ明カナリ故ニ原判決ハ事實ヲ明示セサル
 モノニアラス

其第三點ハ按ズルニ強盜ノ罪タル犯人カ或ル一定ノ人ニ對シ暴行脅迫ヲ以テ其人所有ノ財
 物ヲ強取シ其人ヲ害シタルコトヲ要ス然ルニ原判文ノ認メタル事實ハ被告等カ強取セシ金ハ
 明カニ坂非常吉ノ所有ニ係ルモノニシテ決シテ男女藏ノ所有ニアラス從テ男女藏ヲ害シタ
 ル刑跡ナク又男女藏ヲ害セントシタルノ意思ナキコトモ明カナリ然ラハ本件被告等ノ所爲
 ハ男女藏ニ對シテハ暴行脅迫ヲ爲セシト雖トモ金錢ハ坂非常吉ノ所有ニ係ルモノヲ強取セ
 シモノニシテ實害ヲ被リタルモノハ被告ナリト云ハサルヲ得ヌ已ニ男女藏ニ於テ實害ナシ
 トセハ此點ニ於テ決シテ強盜罪ノ成立スヘキ間ヤレナシ然カニ原判文右ノ事實ヲ認定シナ
 カラ尙且強盜ノ罪ニ擬セラレタルハ擬律ノ錯誤ナリト云フニ在レトモ刑法第三百七十八條

ハ脅迫又ハ暴行ヲ受ケタル人ノ所有ニ係ル財物ナルコトヲ必要トセシニアラス人ヲ脅迫シ
 又ハ暴行ヲ加ヘテ自己ノ所有ニアラサル人ノ財物ヲ強取スルヲ以テ強盜ノ罪ヲ組成スルコ
 トヲ規定セラレタルモノナリ故ニ男女藏カ非常吉ヨリ預リタル財物ニモセヨ男女藏ヲ脅迫シ
 又ハ暴行ヲ加ヘテ其財物ヲ強取シタルニ於テハ強盜罪ヲ組成スヘシ然ルヲ以テ原判決ハ擬
 律錯誤アルコトナシ

其第四點原院カ斷罪ノ用ニ供シタル坂非常吉ノ豫審理由ハ其九十一條ノ裏面ト九十二條ノ
 表面トノ契印ハ契印タルノ効力ナシ然レハ刑事訴訟法第廿條ニ背反セル無効ノ理由ナク此
 無効ノ調書ヲ證據トシタル原判決ハ不法ナリト云フニ在レトモ坂非常吉ノ豫審調書ヲ查ス
 ルニ總契印ヲ存シテ刑事訴訟法第廿條ニ背反シタル點ナシ故ニ原院カ之ヲ採テ證據ト爲シ
 タルモ不法ニアラス

被告石坂紋藏ノ辯護士高木益太郎カ上告趣意辯明書ノ第一點ハ本按ハ第一審裁判所檢事ヨ
 リ主タル控訴ヲ爲シタル事件ニ係ルヲ以テ原院ハ刑事訴訟法第二百五十八條第二百十八條
 ニ則リ被告ヲ訊問スル前控訴人タル檢事ヲノ控訴ノ主意ヲ演述セシムルコトヲ要ス然ルニ
 原院ハ此要式ヲ踐マヌシテ檢事ノ控訴ニ判決ヲ下シタルハ口頭辯論ノ定則ニ背馳スルノ違
 法アリト云フニ在レトモ本案訴訟記録ヲ查閱スルニ本案ハ普通控訴ノ場合ト異ナリ檢事ノ
 控訴ニ於ケル地方裁判所カ輕罪ナリト判決シタルヲ重罪ナリトスル場合ナルヲ以テ原院ハ
 檢事ノ控訴ノ陳述ヲ聽キ刑事訴訟法第二百六十四條ニ則トリ其公判ヲ止メ更ニ重罪事件ト
 強盜事件

シテ裁判スヘキ旨ヲ決定シテ受命判事ヲシテ其事件ノ取調ヲ爲サシメ其報告ニ基キ被告ヲ訊問シタルモノナリ故ニ上告論旨ノ如キ不法アル判決ニアラス

其第二點ハ原院ニ於テ檢事ノ一部控訴事件ニ付事實及證據調完結ノ際ニ至リ被告ヨリ第一審裁判所カ有罪ノ判決ヲ與ヘタルハ不服ナリトノ全部控訴ヲ爲シタルコトハ原院公判始末書ニ記載アルカ如シ然ルニ原院ハ被告ノ控訴事件ニ付利益トナルヘキ證據提出ノ告訴ヲ爲サス直チニ終局裁判ヲ下シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ檢事ノ控訴モ被告ノ附帶控訴モ總テ第一審裁判所カ爲シタル判決ノ全部ニ對スルモノナルコトハ本案記録ニ徴シテ明ナリ故ニ原院ニ於テハ其全部ノ事實ニ對シ之カ審理ヲ爲シ被告等ニ對シ已ニ被告等ノ利益トナルヘキ證據提出ノ告知ヲ爲シタルモノナレハ被告ハ此時ニ於テ縱令附帶控訴ヲ爲サハリシニモセヨ自己ノ利益ト爲ルヘキ證據アレハ總テ提出シ得ヘキハ勿論ナリ故ニ其事實及ヒ證據調完結ノ際更ニ被告カ附帶控訴ヲ爲シタルモノ前ノ告知ノ時ヨリ別ニ利益トナルヘキ證據ノアルヘキ理由モナケレハ再ヒ之カ告知ヲ爲スノ要モ亦ナキノミナラス原公判始末書ヲ査閱スルニ被告モ辯護士モ右附帶控訴ヲ爲シタル後他ニ申立ツルコトナキ旨陳述シタルコト明カナリ故ニ原院ハ公判ノ手續ニ背戾シタルモノニアラス

被告辯護士兩名ハ互ニ其論旨ヲ援用スル旨申立タルモ總テ前説明ノ如クナルヲ以テ茲ニ復説セヌ

以上説明セシ如ク上告論旨ハ總テ其理由ナキヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ照ラシ之

ヲ棄却ス

明治廿八年十二月五日大審院第一刑事部公廷ニ名テ檢事應當融立會宣告ス

裁判長 判事 三好 退藏 元 忠
 同 岡村 爲藏 同 永井岩之丞
 同 川目 亨一 同 伊藤 佛治
 同 十時 三郎

判決要旨

犯罪實行の場所に於て見張りを爲したる者も尙ほ正犯なりとす

說明

共犯の場合に於ては數人一致して共に一罪を實行するものあるを以て數多の所爲の聚合より組成することあり而して其所爲か犯罪實行の一部分に加功したるものなるときは之を正犯と爲あり故に犯罪實行の場合に於て外人の來襲を防止する所爲の如きは犯罪實行の一部に加功したるものなるか故に彼の正犯の所爲に對し單に其實行を容易ならしめたる從犯とは同一視するを得ざるなり

強盜事件

明治廿八年第一三五二號
全年十二月十九日判決

被告人 渡邊 雄之助

同

長谷川 昌次

強盜事件

右強盜被告事件ニ付明治廿八年十月卅日東京控訴院ニ於テ被告共ノ控訴ヲ審理ノ末第一審判決ヲ取消シ被告兩名ヲ各輕懲役六年ニ處シタル判決ニ對シ被告兩名ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求シ原院檢事ハ答辯書ヲ差出サス

大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト左ノ如シ

被告渡邊雄之助上告趣旨ハ原院ニ於テ被告ハ強盜トナルヘキ理由ナク又確實ノ證據ナキニモ拘ハラヌ被告ヲ強盜ト見做シ判決ヲ下シタルハ不當ノ裁判ナリト云ヒ被告長谷川昌次上告ノ趣旨ハ本件ニ付テハ被告ハ犯罪ノ事實ヲ知ラサルノミナラス共謀人ナリトノ證據一モ見ルヘキモノナシ然ルヲ原院カ事實ノ認定ヲ誤リ有罪ノ判決ヲ言渡シタルハ當然破毀セラハルヘキモノト信スト云フニ在リテ右論旨ハ孰レモ原院ノ職權内ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キサルモノナレハ適法上告ノ理由ナシ

辯護士森聲上告論旨擴張書ノ第一ハ本件被告事件ノ強盜タル所爲即チ雄之助ハ打殺スト申威シ正吉ハ金包ヲ強取シ昌次ハ見張ヲ爲シタルコトニ付テハ判決理由中共謀ノ事實ヲ認メス而シテ各自ヲ強盜罪ニ問擬シタルハ理由不備且擬律錯誤アル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ原院文ヲ閱スルニ「被告雄之助ハ此上ハ正治郎ノ足ヲ踏ミ喧嘩ヲ仕掛ケ奢ラシメ若シ奢ラサルトキハ彼レカ所持金ヲ取揚ケ飲食ヲ爲サント發意シ被告昌次正吉ハ之ニ同意シ云々」トアリテ其喧嘩ヲ仕掛ケタルハ即チ暴行ヲ以テ彼レノ所持金ヲ奪ハント云ツテ其意ニ外ナラスシテ其下文ニアル實行ノ手段モ其共謀ノ結果ニ過キサルナリ故ニ原判決

ハ理由不備又ハ擬律ノ錯誤アルコトナシ其第二ハ原判決ノ理由ヲ見ルニ被告昌次ハ才川小路ノ入口ニ見張ヲ爲シ居リタルニ過キヌシテ昌次ノ所爲タル從犯トシテ之ヲ見サルヘカラサルモノナルニ原院カ之ヲ正犯トシテ其刑ヲ科シタルハ擬律錯誤ノ判決ナリト云フニ在レトモ犯罪實行ノ場合ニ於テ見張ヲ爲シ居リタルハ即チ犯罪ノ實行者ニ外ナラサレハ原院カ被告昌次ヲ正犯トシテ處斷シタルハ相當ノ判決ニシテ擬律ノ錯誤ニアラス其第三ハ原院カ刑事訴訟法第四百條ヲ明示セスシテ被告等ヲ正犯トシテ刑ヲ科シタルハ刑事訴訟法第二百三條ニ違犯セシ不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ原判決ハ正犯タルノ事實ヲ認メ之ニ相當スル法條ヲ適用シアレハ該罪ニ揭クル第四百條ヲ明示セザリシトテ不法ノ判決ト云フヲ得ス其第四ハ犯罪ノ状態ニ依リ同時ニ其刑ヲ加重減輕スルトキハ其事故ニ依リテ科スル處ノ刑ニ輕重ノ關係アルヲ以テ刑法第九十九條ヲ適用シ以テ之ニ據準セサルヘカラス然ルニ原判決ハ加重減輕ニ方リ該條ヲ明示セサルハ刑事訴訟法第二百三條ニ反シタル違法ノ判決ナリト云フニアレトモ原判決ニ於テ事實理由ノ部ニ認メタル被告ノ所爲ニ相當スル各法條ヲ適用シテ本刑ヲ定メ其本刑ヨリ一等ヲ酌減シタルコトヲ明示シアレハ加減順序ヲ規定シタル刑法第九十九條ヲ適用スルノ要ナシ故ニ原判決ハ不法ニアラス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本件上告ハ之ヲ棄却ス
明治廿八年十二月十九日大審院第一民事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

裁判長 判事 岡村 爲藏

強盜事件

判決要旨

檢事が現行犯の場合に於て豫審判事に屬する處分を爲すも直に公訴の起りたるものと云ふを得ず

說明

檢事か豫審判事に先たち現行犯あることを知り犯所に臨檢し豫審判事に屬する處分を爲すと雖檢事に於て被告事件罪とならず又は公訴受理すべからずと思料する時は起訴の手續を爲すべからざるものありされは檢事が單に豫審處分を爲したりとて公訴の提起ありたるものとするは違法たるを免れざるなり

囚徒逃走事件

明治廿八年第一三五二號
全年十二月廿七日判決

被告人 吉川伊三郎

明治二十八年十一月八日大坂控訴院ニ於テ吉川伊三郎ノ被告事件ニ付福井地方裁判所カ管轄ヲ言渡シタル判決ニ對スル檢事ノ控訴ヲ審判シ本件控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル第二審ノ判決ヲ不當ナリトシ大坂控訴院檢事長林誠一ハ上告ヲ爲シタルニ因リ刑事訴訟法第

二百八十三條ノ式ヲ履行シ判決ヲ爲スコト左ノ如シ

上告ノ要旨本案原院判決ハ被告カ犯罪ノ地ハ金澤地方裁判所ノ管轄ニ屬シ其逮捕ノ地ハ福井地方裁判所ノ管轄ニ屬シ而シテ本案ニ付金澤地方裁判所管内小松區裁判所檢事ハ重罪ノ現行犯ト認メ明治廿八年六月二日豫審處分ニ着手シ福井地方裁判所檢事ハ同月八日豫審ヲ求メタルモノナレハ刑事訴訟法第廿七條ニ所謂最初豫審ニ着手シタルハ金澤地方裁判所ナルヲ以テ福井地方裁判所ハ管轄違ナリト云フニ在リ是原院ハ刑事訴訟法第百四十四條ニ依リ檢事ハ現行犯ノ場合ニ豫審判事ニ屬スル所分ヲ爲スヲ以テ純然タル豫審ト見做シタルニ基ク不法ノ判決ナリトス抑モ檢事ハ現行犯ノ場合ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲スヲ得ト雖モ其處分ハ全ク豫審判事カ爲ス豫審ト其性質ヲ異ニスルモノニシテ唯事件緊要ニシテ豫審判事ヲ待ツノ暇ナキカ故ニ特ニ檢事ニ豫審判事ノ爲スカ如キ處分ヲ爲スコトヲ許シ特別ノ場合トシテ其檢事ノ處分ハ有効タルコトヲ保證シタルニ過キサルナリ故ニ其處分カ豫審トナルハ檢事カ證據書類ヲ豫審判事ニ送致シ豫審判事カ之ヲ引續キタル時ニアリテ公訴起リタリト云フヘキモノナリ故ニ其以前ニ於テハ檢事限リ之ヲ消滅セシムルコトモ得ヘク或ハ輕罪ニ於テ豫審ヲ求ムル必要ナキ時ハ直ニ之ヲ公判ニ送付スルコトモ得ヘクシテ從來ノ實際ニ徵スルニ檢事ノ爲シタル處分ニ付キ豫審終結ノ決定ヲ爲サルヲ以テモ其豫審ト區別アルヲ知ルニ足ラン又法文ニ就テ之ヲ論スルモ刑事訴訟法第百四十八條ニ地方裁判所檢事ハ云々一切ノ書類ニ請求書ヲ添ヘ豫審判事ニ送致スヘシトアリ第百四十九條ニ地方裁判所

囚徒逃走事件

判所檢事ハ云々輕罪ノ現行犯ニ係リ豫審ヲ求ムルニ及ハスト思料シタル時ハ云々トアリ檢事ノ爲シタル處分カ已ニ豫審ナラハ茲ニ新タニ豫審請求書ヲ添フルハ蛇足ニアラスヤ又豫審ヲ求ムルニ不及ト思料シタルトキハトアルモ穩當ノ法文ト云フヲ得ス以上ノ理由ニ依リ現行犯ノ場合ニ檢事ノナス豫審判事ニ屬スル處分ハ其有効ナルコト猶豫審判事カ爲シタル場合ノ如シトノ意ニ過キス決シテ其處分カ豫審ナリト云フニアラサルヤ明カナリ翻テ本案ヲ按スルニ小松區裁判所檢事ハ本年六月二日豫審判事ニ屬スル處分ニ着手シ證憑書類ヲ金澤地方裁判所檢事ニ送致シタル事跡アリト雖モ金澤地方裁判所檢事ハ之ヲ豫審判事ニ送致シタル證憑書類即金澤地方裁判所ニ於テハ本件公訴ハ起ラサルモノナリ而シテ福井地方裁判所檢事ハ六月八日同裁判所ニ豫審ヲ求メタルモノナレハ本件ハ當然福井地方裁判所ニ於テ判決スヘキモノナリ然ルニ同裁判所ハ管轄違ヲ言渡シ原院ハ其判決ヲ認可シ控訴ヲ棄却シタルハ失當ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ之ヲ審按スルニ刑事訴訟法第七條ニ最初豫審又ハ公判ニ着手シタル裁判所云々トアルハ其明文ノ如ク裁判所カ豫審又ハ公判ニ着手シ即チ已ニ公訴ノ起リタル以上ノ場合ニ付テノ規定ナルコトハ辯ヲ待タスシテ明カナリ而シテ同法第四十四條第四十六條及第七條等ニ依リ檢事又ハ司法警察官ニ於テ豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シタル場合ノ如キハ之ヲ以テ直チニ公訴ノ起リタルモノト爲スヘカラサルハ同法第四十九條第三項ニ被告事件罪トナラス又ハ公訴受理スヘカラサルモノト思料シタルトキハ起訴ノ手續ヲ爲ス可ラストアルニ依ルモ自ラ明瞭ナリトス何トナレハ條文ノ

裡面ヲ見ルトキハ右豫審判事ニ屬スル處分ヲ爲シタル後果シテ有罪ノモノト思料シタル豫審初起訴ノ手續ヲ爲スヘシトハ意義ヲ包含シタルモノト解釋シ得ルヲミナラス若シモ其前ニ公訴ノ起リタルモノトモハ裁判所ノ判決ニ因ラズシテ檢事カ其事件ヲ取捨スルハ理由アルカテサレハナリ然レハ福井地方裁判所カ爲シタル裁判ハ不當ニ管轄違ヲ言渡シタル不法ノ裁判ナリトス故ニ原院ハ該裁判ヲ取消シ同法第二百六十二條第二項ニ依リテ本件ヲ福井地方裁判所ニ差戻スヘキ筋ナルニ原院ハ之ニ反シ金澤地方裁判所管内小松區裁判所檢事前掲第四百六十六條ニ依リテ爲シタル處分ヲ以テ直ニ同法第二十七條ニ該當スルモノト爲シ福井地方裁判所カ本件ニ付管轄違ナリトシタル判決ヲ認可シタルハ上告論旨ノ如ク破毀ノ原因アルモノトス因テ同法第二百八十六條ニ從ヒ第一審第二審ノ判決ヲ破毀シ同法第二百六十二條第二項ヲ準備シ本件ヲ福井地方裁判所ニ差戻ス

明治二十八年十二月廿七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

- 裁判長 原田 種 成
- 判事 長 谷川 喬
- 同 島田 正 章
- 同 昌谷 千里
- 同 木下 哲三郎
- 同 柳 田 直 平
- 同 津 村 董

判決要旨

裁判官を詐欺取財罪の手段と爲すこと得

四徒逃走事件 私書偽造行使私印盗用及詐欺取財未遂事件

說明

裁判官は事實の眞否を密按し法律の適用を掌とる職務あるか故に虚妄の事實を構造し裁判官をして錯誤を生じ審判を枉断せしめ以て自己の慾望を逞ふせんとする所爲をなしたるときは這は裁判官を以て詐欺取財の手段とあしたるものと云はざるべからず

私書偽造行使私印盗用及詐欺取財未遂事件

明治廿八年第一三六二號
全年十二月五日判決

被告人 小林 音吉

右私書偽造行使私印盗用及詐欺取財未遂事件ニ付明治二十八年一月六日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴ヲ審理ノ未檢事ノ爲シタル公訴不受理ノ申立ハ之ヲ却下ス原判決中被告ニ關スル有罪ノ部分ハ之ヲ取消ス被告音吉ヲ重懲罰一年六月罰金廿圓監視六月ニ處シ犯罪ノ用ニ供シタル金百五十圓ノ受取證書一通ハ之ヲ沒収シ其他押収ノ書類ハ各差出人ニ還付スト言渡シタル判決ニ對シ原院檢事長野村維章並ニ被告ヨリ上告ヲ爲シ原判決ノ破毀ヲ要求セリ大審院ニ於テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ式ヲ履行シ審判スルコト右ノ如シ
檢事長上告趣意書ノ第一ハ刑法第二百九條以下及同第三百九十條以下ノ規定ニ參照スルハ則私書偽造行使ノ詐欺取財ハ各別罪ヲ組成スルコトハ明白ナリ故ニ此兩罪ヲ犯シタル者者ナルトキハ則刑法第三百九十條第二項ノ規定ナシト雖トモ同第三百條第三項ノ規定ヲ適用スルニキ論ヲ待タズ然レトモ判決者中或ハ私書偽造行使ハ詐欺取財罪ノ手段ニ屬スルハ別罪

ヲ組成セストノ誤解ニ陥ル者アラシコトヲ豫防シ尙二罪ヲ構成スルコトヲ示サン爲メ刑法第三百九十條第三項ヲ設定セシメタルニ過キス然ルニ原院ハ此法意ヲ察セテ該法ハ兩罪ヲ結合シテ一罪ト爲シタルモ之ヲ解釋シ私書偽造行使罪ノ公訴アル以上ハ詐欺取財罪ノ起訴ナキモ裁判所當然該罪ノ起訴アルモノト見做シ審理判決スルニキモト判定シタルハ刑法第三百九十條第二項ノ解釋ヲ誤リ不當ニ之ヲ適用シタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レドモ詐欺取財罪ヲ犯スニ依リ私書偽造行使ノ所爲アルモノハ即チ犯罪タル一所爲ニシテ二罪ヲ構成スル所ノ事實ヲ包含スルナリ之ヲ換言スルハ想像的ノ二罪ニシテ實際ニ於テハ犯罪タル一所爲カ二個ノ罪名ニ觸ルモノニ外ナラサルナリ刑法第三百九十條第二項ハ如此場合ヲ規定シタルモノニシテ上告論旨ノ如キ律意ニアラス故ニ本件ノ如キ詐欺取財ヲ目的トセル文書偽造行使罪ニ付起訴アリタルトキハ詐欺取財ノ事實モ其公訴中ニ包含セシモノト云ハサルヲ得サレハ原院カ本件ノ公訴ニ於テ詐欺取財未遂ノ點モ亦起訴アリタルモノト判定セシハ相當ニシテ上告論旨ノ如キ不法アルコトナシ其第二ハ當院ノ判決ハ本案ノ私書偽造行使詐欺取財ノ兩罪ヲ以テ一罪ト爲ス此判決ノ趣旨ニ依レハ本罪ハ私書偽造行使ト詐欺取財ト二個ノ行爲集積シテ私書偽造行使詐欺取財ト稱スヘキ十語連續ノ一犯罪ヲ組成シタル者ニシテ此兩罪ヲ比較シ其犯情重キニ從ヒ處斷スルヲ得ヘカラサル理ナリ然ルニ當院ハ判決理由中擬律ノ一段ハ本罪ヲ以テ二罪トナシタルカ如ク公訴不受理ノ申立ヲ却下スルハ一段ニ至テハ之ヲ一罪ト爲シタルモノ、如ク前後矛盾シテ理義貫通セサルノ弊ニ陥リタ私書偽造行使私印盗用及詐欺取財未遂事件

ルナリ是レ則チ刑事訴訟法第二百九十六條第九ニ所謂ル理由ノ齟齬アル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ前掲説明セシ如ク本件ノ犯罪ハ想像的ノ二罪俱發ニシテ實体的ニ於テハ一犯罪タルニ過キサレヘキモ之ヲ處分スルニハ其罪名ニ觸ルモノノ中一ノ重キニ從ヒ裁判スヘキモノナレハ原院カ本罪ノ犯罪ヲ一罪ト認メタルニ拘ハラヌ私書偽造行使及ヒ詐欺取財未遂ノ點ニ對シ各相當ノ刑ヲ擬シタルハ當然ノ事ニシテ決シテ理由齟齬ノ判決ニアラス被告小林音吉ノ上告趣意書第一并ニ辯護士高木益太郎上告辯明書第三ノ論旨ハ檢事長上告趣意第一ノ論旨ト同一ナレハ其趣旨及ヒ説明ハ爰ニ再記セス

被告上告趣意書第二ハ本件ニ付テハ被告ニ利益ナル證據歴々存スルニモ拘ハラヌ原院ハ悉ク之ヲ度外ニ付シ輕ク有罪ノ判斷ヲ下シタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ法律上原承審官ニ特任セラレタル證據ノ判斷ニ對シ徒ラニ論難ヲ試ムルモノニ過キサレハ固ヨリ上告ノ理由ト爲スヘキモノニアラス

辯護士上告辯明書第一ハ原院カ本件偽造ノ受取證書ヲ刑法第四十三條第二號ニ照ラシ沒取タルハ不法ナリト云フニ在リテ右論旨ハ適法上告ノ理由アルモノトス何トナレハ偽造證書ハ法律ニ禁制シタル物件ナレハ同條第一號ニ依リ沒取スヘキモノニシテ同條第二號ニ照ラシ沒取シタルハ違法ノ判決タルヲ免ルヘラザレハ其第二ハ原院ハ第一審裁判所カ私印盜用ハ所爲アルモノトシ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不當ナルモノトテ辯明シ被告ノ控訴兼理由及ルモノトセリ左スレバ其判決主文ニ於テ第二審ノ裁判第一審ノ裁判ヲ取消シタル處

私印盜用ノ罪ニ付テハ公訴成立セザル旨ノ判定ヲ下スヘキ筈ナルニ事茲ニ出テサリシハ判決ノ理由ト其主文ト適合セザルハ違法アルモノナリト云フニ在リトモ原院ニ於テ私印盜用ノ點ハ第一審裁判所ヘ公訴トシテ輕屬ナキコトヲ論明シ而シテ其主文ニ於テ之ヲ有罪トナシタル第一審判決ノ取消シタル上ハ公訴成立セザル旨ノ判決ヲ爲スニ要ス故ニ原判決ハ違法ニアラス其第四ハ訴訟ハ國家ノ裁判權ニ其典直ヲ一任スルモノナリ是故ニ被告ニ於テ虛構ノ事實ヲ設ケ反訴ノ方法ニ依リ自己ノ差入レタル借用證書ヲ取戻サントシタル所爲ハ詐欺取財罪ナリト云フヘキモノニアラス然ルニ原院カ有罪ノ判決ヲ下シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ虛構ノ事實ヲ設ケ裁判官ヲ錯誤ニ陥ラシメ自己ノ所有ニ屬セサル物件ヲ騙取セシトスル所爲ハ即チ詐欺取財犯ナレハ上告論旨ハ其理由ナシ

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十六條第二百八十七條ニ依リ原院決擬律ノ部分ヲ破毀シ直ニ原院檢事長ノ上告ハ同法第二百八十五條ニ依リ之ヲ棄却ス

小林 音吉

原院ノ認メタル事實ニ依リ偽造ノ受取證書ハ刑法第四十三條第一號ニ依リ之ヲ沒収シ其他ハ原判決ノ通り

明治廿八年十二月五日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

裁判長 判事 三好 退藏 判事 寛元 忠

同 岡村 爲藏 同 永井 岩之丞

私書偽造行使私印盜用及欺詐取財未遂事件 私印盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件 百九十三

同 川目享一 同 伊藤保治
同 十時三郎

判決要旨

印紙稅則違反の證書と雖之を以て詐欺取財犯の手段に供すること得

說明

印紙稅則違反の證書は裁判上證據として採用すべからざるのみにして實
体上其効力に於て何等の影響なきものあることは法律上相當の處罰を受
け其不足印紙を加貼するときは全然効力を保有するを以て知り得るも
されは此の證書を以て詐欺取財の手段に供するときは純然たる犯罪を構
成するものなること明白なり

私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂事件

明治廿八年第一三三四號
全年十二月五日判決

被告人 山口竹三郎

同

久保田 忠一郎

右竹三郎外一名ニ對スル私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂被告事件ニ付明治廿八年十月
十八日東京控訴院ニ於テ被告ノ控訴及原院檢事ノ附帶控訴ヲ受理シ審理ノ末原判決ハ之ヲ
取消ス被告竹三郎ヲ重懲罰二年六月ニ處シ罰金三十圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス被告忠一郎
ヲ重懲罰二年ニ處シ罰金十五圓ヲ附加シ監視六月ニ付ス示談濟方約定證書ニ通ハ之ヲ沒收
シ其他ノ押收書類ハ總テ各差出人ニ還付ス公訴裁判費用ハ全部被告ノ連帶負擔トス下旨渡

シタル裁判ニ服セズ被告ヨリ上告ヲ爲シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履
行シ審理スルニ至リ左ノ如シ
被告竹三郎上告趣意第一ハ要スルニ原院公判廷ニ於ケル檢事ノ請求ハ單ニ情實の偏頗不當
ノ者ナリ犯罪ノ證據トナシタル示談濟方證書真正ナリ又其證書及代人願書ノ實印ノ眞否ヲ
嘉吉ヲ證人トシテ呼出シ取調ヲナサシムルハ違法ナリト云フニ過キヌシテ凡テ原院ノ職權ニ
屬スル事實ノ認定證據ノ取捨ヲ非難スルニ外ナラサレハ上告適法ノ理由トナラス同人上告
趣意擴張辯明書(明治廿八年十月三十一日付)第一ノ要旨ハ豫審ニ於テ證人嘉吉ト對質ノ
際事實相違ノ廉アリ且ツ被告ノ利益トナル點ノ落記アルヲ以テ之カ訂正ヲ乞ハント欲シ至
急召喚相成リ度旨詳細ノ理由ヲ具シ上申書ヲ以テ請求シタルニ豫審判事ハ之ヲ受理セシメ
シ更ニ呼出ヲ爲サヌ其儘終結セリ然ルニ原院ハ此不法ノ調書ヲ採テ斷罪ノ資料ニ供セシメ
不法ナリト云フニ在レドモ右申書ヲ見ルニ對質調書ノ増減變更ヲ請求スル趣旨ノ記載ア
ルコトナケレハ本趣旨ハ謂ハレナシ第二ノ要ハ四十四圓ノ借用證書ノ眞否ニ付續々陳述ス
ルニ過キサレハ固ヨリ上告適法ノ理由トナラス
同辯明書(明治廿八年十一月七日)第二ハ要スルニ第二審ノ公判ニ於テ裁判長ハ被告ニ對
シ被告等ノ爲メニ不利益トナル理由ハ別段無之單ニ嘉吉ノ陳述カ不利益トナリタルモノナ
レバ之ヲ即讀セシメサルモ宜シカコトトコトニ付キ被告等ハ嘉吉ノ陳述ハ偽リナルコト
豫審對質調書ヲ見テモ明ナレハ裁判長ノ仰ニ從ヒ之カ即讀ヲ請求セザリシナリ然ルニ判決
私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂事件

勝本ヲ閱スルニ其事實ハ参考人井坂由松桑原「ハナ」及被告三名ノ各豫審調書云々ニ徴シ證十分アリトアリ裁判長ハ被告ニ對シ詐言ヲ用ヒタルノミナラス刑事訴訟法第二百十九條同第九十八條等ニ違背スルモノナリト云フニ在レトモ原院公判始末書ヲ査閱スルニ裁判長カ嘉吉ノ陳述ノミ不利益ナリト明言セシ事跡ナキノミナラス示談約定證其他一切ノ證據書類ヲ示シテ辨解セシメ尚ホ記録ノ朗讀省略ニ異存ナキ旨ノ答ヲ得テ其辨解ヲモ求メタルニ各被告ハ之ニ對シ相當ノ答辯シタルニ依リ證據調ヲ結了シタルヲ以テ本論旨ノ如キ不法ノ廉一モ之レアルコトナシ其第二ハ要スルニ原判決理由中金圓ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所爲ハ云々第百十二條第百十三條ニ依リ云々一等ヲ減スヘキモノニ該當シ云々トノミアリテ第百十三條ノ第二項ヲ明示セサルハ理由不備ノ違法アル裁判ナリト云フニ在レトモ本件ノ犯罪輕罪ナル已上ハ同條第三項ヲ適用シテ處分スヘキモノナルコト明白ニシテ一モ疑フヘキモノナキヲ以テ第百十三條ヲ示ス已上ハ殊ニ第三項ヲ示サハルモ之ヲ違法ト云フヘカラヌ

同辯明書(明治廿八年十一月三日付)ハ要スルニ豫審取調ノ模様ヲ非難スルニ過キサレハ上告ノ理由トナラス

被告忠一郎上告趣意ハ原院ハ犯罪ヲ構成セサル事實ニ對シ斷罪ノ判決ヲ言渡サレタル違法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ原院ノ認メタル事實ノ犯罪タルコト明白ナレハ有罪ノ判決ヲ爲メタルハ固ヨリ當然ニシテ違法ノ廉カシ

被告兩名辯護人沼田宇源太上原庭造上告趣意第一點ハ原判決ハ事實指示ノ末段ニ於テ「明治廿六年十一月廿三日竹三郎ノ名義ニテ勘左衛門ニ對シ金五十一圓九十八錢ノ約定金即チ依願事件ニ付受取ルヘキ報酬金アリト稱シ土浦區裁判所ニ約定金請求ノ訴訟ヲ提起シ同年十二月六日同月十三日ノ口頭辯論ニ於テ證據トシテ該示談方濟約定證書ヲ同法廷ニ提出シ尙ホ明治廿七年二三月ノ頃更ニ勘左衛門更ニ係リ立替金アリト稱シ金百廿五圓ノ支拂金ニ付支拂命令ヲ發センコトヲ同區裁判所ヘ申請シ其命令書ヲ勘左衛門ニ送達セシメタル處云々」ト説明シ刑ノ適用ノ部ニ於テ「金圓ヲ騙取セントシテ遂ケサリシ所爲ハ同法第三百九十條第一項云々」ト論斷シ前示約定金請求ノ訴訟及ヒ支拂命令申請ニ付キ孰レカ詐欺取財未遂トナルヤ又前後二回ノ所爲トモ詐欺取財未遂ニ該當スルヤニ付テ判然刑ノ適用ヲ示サレタルハ不法ナリ若シ前後二回ノ所爲トモ詐欺取財未遂ニ該當スルモノトスレハ約定金請求ノ訴訟ハ證據方法トシテ示談方濟約定證書ヲ提出シタルハ不法ナリトスルモ是只タ證據方法ノ一部ニシテ主タル證據方法ト云フヘカラス現ニ勘左衛門ヨリ委任ヲ受ケ被告由松ヲ訴追シ勝訴ヲ得タル等ノ事實ニ依リ正當ニ勘左衛門ニ對シ謝金ヲ請求スヘキ權利ヲ有シタルヤモ知レヌ若シ被告竹三郎ニ此ノ權利ナシトスレハ其事實理由ヲ示サハルヘカラス然ルニ一先ツ事件落着シタル事ヲ證スル民事上間接ノ證據方法カ不法ナルノ故ヲ以テ恰モ權利ノ本體ヲ有セスシテ全然詐欺取財ヲ行ハントスルカ如ク説明セラレタルハ是又事實理由ノ不備ナル不法ノ裁判ナリト云フニ在レトモ原判決ヲ閱スルニ「茲ニ竹三郎ノ發意ニ依リ勘

私即盜用私書偽造行使詐欺取財未遂事件

左衛門ノ實印ヲ盗用シテ同人名義ノ證書ヲ偽造シ之ヲ利用シテ約定書及立替書アリト稱シ
 同人ヨリ金圓ヲ騙取センコトヲ共謀シ云々」以上ノ如クニシテ勘左衛門ノ依頼事件ヲ正當ニ
 示談濟方ト爲シ且金圓ヲ立替ヘタル体ニ取捨ヘ茲ニ金圓騙取ノ準備整ヒタルヲ以テ云々ト
 説明シタル所ヲ見ルニ原院ハ勘左衛門ヨリ金圓ヲ騙取セントスル一個ノ目的ヲ遂ケンカ爲
 メ約定金請求ノ訴訟ヲ提起シタルト支拂命令申請トノ二個ノ手段ヲ用ヒタルモノトシテ一
 個ノ犯罪ト認メタルコト疑ヒナシ故ニ本論旨前段ハ上告ノ理由ナシ又前段ニ摘示セシ如ク
 原院ハ明カニ被告ノ所爲ヲ金圓ヲ騙取スルノ目的ニ出テタルモノト認メアレハ事實理由ノ
 不備アルコトナケレハ本論旨後段モ上告ノ理由ナシ尙ホ本論旨ノ追加トシテ沼田辯護士ハ
 若シ原院ニ於テ約定金請求ノ訴訟ヲ提起シタルコト、立替金アリト稱シ支拂命令ヲ申請シ
 タルコト、二個共ニ詐欺取財未遂ノ所爲ナリトセハ必ス數罪俱發ノ例ヲ適用セサルヘカラ
 ス然ルニ之ヲ適用セサルハ不法ナリト論スルモ其適法ノ理由トナラサレハ前段ノ説明ヲ以
 テ了解スベシ

上原沼田兩辯護士上告趣意擴張第一點ハ原判決ハ上告人山口竹三郎カ土浦區裁判所ニ於テ
 明治廿六年一月六日及同月十三日ヲ以テ示談濟方約定書ヲ提出シタル所爲モ尙ホ詐欺取
 財未遂トシテ説明シアレトモ其當時提出シタル證書ハ印紙貼用ノ不足アリシコトハ原院
 ノ認ムル所ニシテ此證書タル法律上全然無効ノモノナレハ之ガ提出ヲ爲シタルハトテ詐欺
 取財ノ目的トナスコト能ハサルハ法律上當然ノ事柄ナリトス果シテ然ラハ右提出ノ所爲ハ

絕對的ニ詐欺取財ノ用ヲ爲シ能ハサルモノヲ任用セントシタル者ノニシテ法律上罪トナル
 ヘキモノニアラス然ルニ原裁判所カ是亦詐欺取財未遂ノ所爲ノ如ク説明シタルハ違法ナリ
 云々トシテ下モ印紙貼用不足ノ證書ト雖モ絕對的ニ詐欺取財ノ用ヲ爲シ能ハサルモノト
 云々トシテ之ニ依リ其不足ノ間ハ裁判上證據ト爲シ能ハサルモ其實体ノ効力ニ關係ナクシテ
 相當ノ處分ヲ受ク印紙ヲ加貼スルニ於テハ全然其効力ヲ有スベキモノナレハナリ而シテ本
 件ニ於テ其印紙貼用不足ナルコトヲ發見セザルニ至リ遂ニ詐欺取財ノ罪ヲ遂クルニ至ラ
 タリシハ元來被告カ印紙ヲ相當ニ貼用セズ即チ手段ノ拙劣ナリシニ依ルモノナレハ此即チ
 法律ニ所謂純然ニ依リ犯罪ヲ遂ケザリシモノト云フヘシ故ニ本論旨モ上告適法ノ理由ナシ
 其第二點ハ原判決證據ノ部ニ「押収ニ係ル示談濟方約定書金四十四圓ノ借用證書金百廿五
 圓ノ受取證書」トアレトモ此等ハ一件記録ヲ閱スルニ全ク押収ノ手續ヲナシタルコトナク
 隨テ押収目録中ニモナキモノナルニ係ハラス原判決ニ於テ押収ニ係ル云々ト説明シタルハ
 不法ナリト云フニ在レトモ右等ノ書類ノ押収シタルコト一件記録ニ明カナレハ本論旨ハ謂
 ハレナシ其第三點ハ上告人等ニ對シ正式ノ拘留狀ヲ發シ居ルコトハ一件記録中一モ之ナキ
 モナレハ豫審以來上告人等ニ對スル審問ハ公式ノ手續ヲ經サル審問ニシテ全然無効ノモ
 ノ未ダ然レバ原判決ハ無効ノ審問ニ基キタル上告人等ノ豫審調書ヲ斷罪ノ證トシタルハ不
 法ナリト云フニ在レトモ拘留ヲ爲サレハ豫審ヲ爲シ能ハサルノミナラス假令正式ノ拘留
 狀ナシトモ之モ不法ノ手段ヲ以テ被告人ニ供進セシ之ヲ錄取シタルカ如キ場合ニアラズ
 私印盗用私書偽造行使詐欺取財未遂事件

判決要旨

摸造小判を抵當に差入れ金員を借用せんことを申込みたるに貸主より之を拒絶せられたるときは詐欺取財未遂罪とす

説明

詐欺取財をなすの犯意ありて其犯罪行為に着手せるも被害者の看破する所となりて所爲の實行を遂げ得ざるものは所謂意外の障礙に依りて遂げざるものなるを以て之を詐欺取財の未遂犯とす

詐欺取財事件

明治廿八年第一四〇三號
全年十二月廿四日判決

被告人 菅原利三郎

右詐欺取財被告事件ニ付明治廿八年十一月十五日宮城控訴院ニ於テ原判決ヲ取消シ被告ヲ重懲罰十月罰金十圓監視七ヶ月ニ處シタル判決ニ對シ被告ヨリ上告ヲ爲シ原院檢事長犬塚盛親答辯書ヲ提出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ法式ヲ履行シ檢事岩野新平辯護士小笠原久吉ノ辯明ヲ聽キ判決スルヨリ左ノ如シ
上告要旨第一ハ原院ハ被告ニ於テ相被告大村敬三郎ヨリ第十一項ノ摸造小判ヲ其情ヲ知りテ收受セシ如ク推言スレドモ被告ハ彼ノ欺カ所トシテ收受ノ際ハ眞物ノ小判ト信シ之ヲ使用セシトシタルコトハ原院モ之ヲ認メ本件記録モ之ヲ證明セリ然ルニ漫然摸造小判ヲ其情ヲ知りテ收受シタルノ文字ヲ下シ有罪ノ判決ヲ下シ然レバ不法ナリト云フニ在レドモ要ス

三十八

ルニ原院ノ職權ニ屬スル事實ノ認定ヲ論難スルモノニシテ上告ノ理由分シトス第二ハ原院文證據ノ部ニ被告敬三郎利三郎ニ對シテハ云々又敬三郎利三郎彦三郎由三郎ニ對シテハ云々トアリテ共犯人ノ如ク證據ヲ明示スレドモ事實及法律ノ理由ニハ敢テ共犯ト認メ前後矛盾ノ裁判ナリト云フニアレトモ原院文ハ各被告ニ對スル證據ヲ列記シタルモノニシテ總テ共犯トナシタルニアラサルヲ以テ毫無齟齬スル所ナシトス辯護士補充書ノ要旨第一ハ本件事實ノ第十六第二十二第二十六乃至第三十三項ノ所爲中現ニ罪ヲ行フタル事實ナク又意外ノ障礙若クハ舛錯ニ依リテ遂ケル能ハサル事實ノ明示ナシ殊ニ廿六項ノ所爲ハ單ニ文藏ニ賣却方ヲ依頼シタルニ止マリテ抵當トシテ金員借入方ハ被告ノ關與セサル事實ナリ然レハ其所爲ニ付テ罪ヲ受クヘキ理ナシ假リニ依頼ノ結果ナリトスルモ金員借入ヲ申込ミタルニ之ニ應セザリトノ說明ハ意外ノ障礙若クハ舛錯ニアラサルヲ以テ原院カ此等ノ所爲ニ對シ未遂ノ有罪トシテ罰シタルハ理由不備又ハ擬律錯誤ノ裁判ナリト云フニアレトモ第六項ノ所爲ハ原院文ニ明示スル處ニ依リ被告カ摸造小判七枚ヲ其情ヲ明ナス眞正ノ小判トシテ賣却方ヲ文藏ニ依頼シ其依頼ノ結果轉シテ利藏ヨリ運平ニ對シテ抵當ニ差入レ金圓貸與ヲ申込ミタルモノナレハ被告カ文藏等ヲ使用シ人ヲ欺罔シテ騙取セシムタルノ事實ハ明瞭ナリ又該小判ヲ抵當ニ差入レシ申込ミタルモ運平ニ斷レタルハ被告自カラ犯罪ヲ中止シタルニアラス若シ運平カ眞正ノ小判ナリト誤信シタルニハ十分ニ目的ヲ達スルコトヲ得ヘカリシモ幸ヒ申込ヲ斷リタルニ依リ目的ヲ達セザリシモノナレハ即チ意外ノ障礙ニ依リ詐欺取財事件

二百五

三十九

ハ、遂ケサルモノナリ故ニ詐欺取財未遂ノ罪ヲ以テ被告ヲ所斷シタルハ相當ナリトス其他第十六第二十二第二十七乃至第三二項ノ所爲ハ何レモ模造小判ヲ其情ヲ明サス他人ヲシテ賣却抵當又ハ質入ト爲サントシテ遂ケサリシ事實理由ノ明示アリテ之ニ對スル擬律ハ違法ノ點ナリ上告ハ其理由ナシ第二ハ地方裁判所判事ハ控訴院長ノ通知ニヨリ控訴院判事代理ノ資格ヲ以テ列席スルコトヲ得ルト雖モ單ニ地方裁判所判事ノ資格ヲ以テ列席スルコトヲ得ス然ルニ原院公判始末書ニ依レハ仙臺地方裁判所判事河原榮次郎氏カ列席シタルハ適法ニ裁判所ヲ構成セシテ與ヘタル違法ノ判決ナリト云フニ在レトモ判決原本ニ河原判事ハ宮城控訴院判事代理ナルコト記載アリテ地方裁判所判事ノ資格ヲ以テ列席シタルニアラサルコト明瞭ナレハ違法ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本按上告ハ之ヲ棄却ス
明治廿八年十二月廿四日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

- 裁判長判事 原田 種成 判事 長谷川 喬
- 同 島田 正章 同 昌谷 千里
- 同 木下哲三郎 同 柳田直平
- 同 津村 董

判決要旨

明カニ豫審決定書ハ掲げざる事實なるも當然之れハ包含せらるべき事

實ニ對しては公判に於て判決を與ふるも違法にあらざる

說明

一旦豫審を経たる事件なるときは公判に於ては其決定以外の事實に侵入して判決を與ふへからざるは刑事公判上の一原則なりと雖若し決定以外の事實にあらざるして而かも決定内に包含せらるべき事實に對しては判決を與ふるも違法をあらざるのみならず寧ろ公判々事の職權に屬するものなり

私印盜用私書偽造行使詐欺取財事件

明治廿八年第一四三三號
全年十二月廿七日判決

被告人 野田 義之助

右私印盜用私書偽造行使詐欺取財被告事件ニ付キ明治廿八年八月三十日大坂控訴院ニ於テ被告ヲ無罪トシ附帶控訴ハ棄却スルトノ判決ヲ爲シタルニ對シ原院檢事ヨリ上告ヲ爲シ被告ハ答辯書ヲ差出シタルニ依リ刑事訴訟法第二百八十三條ノ法式ヲ履行シ判決スルコト左ノ如シ

上告趣意ノ要旨第一ハ公判判決ハ豫審決定以外ニ侵入スヘカラサルモノナリ本按豫審決定ノ事實ハ宅地建物造作ヲ騙取シタルト云フニ在リテ委託物費消ノ事實ニ至リテハ曾テ公判ニ附セラレタルモノニアラサルニ第一審カ委託物費消ノ所爲アルモノトシ處分シタルハ請求ナク判決ヲ爲シタルモノニ付第二審ハ第一審判決ヲ取消カ或ハ公訴受理スヘカラサルノ音渡ヲ爲サトル可カラス然ルニ第二審カ其事實ニ立入り被告事件罪トナラストシテ無罪ノ私印盜用私書偽造行使詐欺取財事件

言渡ヲ爲シタルハ不當ナリトス假リニ第一審カ委託物費消ト爲シタル事實ハ公判ニ付セラレタル宅地建物造作騙取ノ所爲ニ外ナラストセンカ同一ノ事實ニ對シテ抵觸スル二個ノ判決ヲ爲シタルモノトセサルヘカラス而シテ二個ノ判決中無罪ノ點ハ既ニ確定シテ勸スヘカラサルカ故ニ第二審ハ確定判決ヲ經タルモノトシ免訴ノ言渡ヲ爲サルヘカラス要スルニ二個ノ事實トスレハ委託物費消ノ點ニ付テハ公判ニ付セラレサルヲ判決シタルモノニ付第一審ヲ取消スカ或ハ公訴受理スヘカラスルノ判決ヲ爲スヘク否ラサレハ免訴ノ言渡ヲ爲サルヘカラスト云フニアレトモ被告カ本件地所建物ノ登記ヲ受ケタル後チ之ヲ小郷彌兵衛ニ賣渡シタル所爲ハ豫審終結決定書ニ於テハ該物件騙取ノ結果ナリトシタルヲ以テ之ヲ揭舉セサルモ畢竟其詐欺取財ナリトセシ事實ハ一部ナレハ公判ニ付セラレサル事件ナリト云フヲ得ス又第一審判決ハ私印ヲ盜用シ委任狀ヲ偽造行使シ不動産ヲ騙取シタリトノ點ハ無罪トシ委託物費消罪ニ付刑ヲ言渡シ被告ハ其有罪ノ判決ニ對シ控訴ヲ爲シタル案件ナレハ其委託物費消ノ點ニ付テハ判決確定シタルニアラス故ニ原院カ委託物費消ノ事實ニ立入り本按ノ判決ヲ與ヘタルハ相當ナリトス第二ハ檢事ノ附帶控訴ヲ棄却シタルモ其理由タル失當ヲ免レヌ何トナレハ冒認販賣ノ事實ハ公判ニ付セラレタルモノニアラス又詐欺取財ノ點ハ既ニ確定シタルカ故ニ之ヲ棄却セシヨハ其理由ヲ以テセサルヘカラスルニ冒認罪ヲ以テ論スルヲ得スト爲シ棄却ノ判決ヲ爲シタルハ不當ナリト云フニアレトモ第一審判決ニ於テ委託物ノ費消ナリトセシ所爲即チ被告カ本件ノ不動産ヲ小郷彌兵衛ニ賣却シタル事ハ公判

ニ付セラレタルモノニシテ且判決ノ確定ナキコトハ前段説明ノ如シ而シテ原院檢事ノ附帶控訴ハ公判始末書ニ示ス如ク第一審判決ニ委託物費消ナリトセシ事實ハ冒認販賣ト認ムルカ妥當ナリト云フニシテ原院カ其事實ニ立入り冒認罪ヲ以テ論スルヲ得ストノ理由ヲ以テ控訴ヲ棄却シタルハ失當ニアラス第三點ハ第一審ハ私印盜用私書偽造詐欺取財罪ノ點ニ對シ無罪ヲ言渡シ委託物費消罪ヲ以テ斷シタルモノナレハ第二審ニ於テ有罪ノ點ヲ不當ナリトスレハ委託物費消罪ニ關スル部分ヲ取消スヘキニ却テ既ニ無罪ニ歸シタル詐欺取財ニ關スル部分ヲ取消シ更ニ無罪トナシタル委託物費消ノ點ニ付テハ罪トシテ論スヘカラサルノ理由ヲ付シタルノミニシテ主文ニ之ヲ明記セサルハ請求ヲ受ケタル事件ニ對シ判決ヲ爲サル不法ノ判決ナリト云フニ在レトモ本件ハ私書偽造私印盜用詐欺取財ノ名ヲ以テ起訴セラレタルモノニシテ第一審ニ於テ委託物費消ナリトセシ事實ハ其詐欺取財ノ訴名中ニ包含ス故ニ原判決主文ニ詐欺取財ニ關スル部分ヲ取消シト掲ケタルハ委託物費消ナリトセシ所爲ヲ指稱シタルコト明白ナレハ請求ヲ受タル事件ニ判決ヲ與ヘサルノ違法アリト謂フヲ得ス上告ハ其理由ナシトス

右ノ理由ナルヲ以テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ依リ本案上告ハ之ヲ棄却ス
明治廿八年十二月廿七日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事安居修藏立會宣告ス

裁判長 判事 原 田 種 成 判事 長 谷 川 喬

同 島 田 正 章 同 昌 谷 千 里

私印盜用私書偽造行使詐欺取財事件

私印私書偽造詐欺取財事件

判決要旨

死者の名義を以て偽造したる文書は生存中の日付に係るを要す

說明

文書偽造罪の一條件として記録者の資格を偽るを要することは現今有力なる學說にして大審院判例も亦之れに一致する所ありとす而して死者の資格を偽りて文書を作製せんとするには其日付死者の生存中にあらざれば該罪成立せず何となれば社會に生存せざる人の名義を以て文書を偽造するてふ所爲は記録者の資格を偽るを要せざる法理思想と相容れられはかり故に死者の名義を以て文書を偽造するには其日付を死者の生存中に係らしめ恰も其生存中死者自から作製したる如き外觀的文字の記入ありて始めて當該犯罪成立するものとす

私印私書偽造詐欺取財事件

明治廿八年第一四六〇號
明治廿九年一月十四日判決

被告 大 藤 野 清 男

被告清男と對スル私印私書偽造詐欺取財被告事件ニ付明治廿八年十一月十六日宮城控訴院ニ於テ被告ヲ控訴ヲ受理シ審理ノ末被告清男ニ對スル原判決ハ之ヲ取消ス清男ヲ重禁錮ニ

年ニ處シ得金廿五圓監視ニ付附加ニ偽造ノ契約證書ヲ沒收シ騙取ニ係ル證書五通ニ被害者ニ還付シ其他ノ押收書類物件ハ皆遺出人ヨリ遺付スル旨言渡シタル判決ニ服セス被告ヨリ丑告ヲ爲シタルニ依リ刑罰訴訟法第二百八十三條ノ法式ヲ履行シ審理スルコト左ノ如シ
被告辯護人高木益太郎上告辯明第一點ニ相續人ニ對シテ利用スル爲メ其先代死者名義ノ文書ヲ作成スルモ生存中ノ日付ヲ以テセサル以上ハ私書偽造ノ犯罪成立スルコトナシ是故ニ本件被告ノ偽造ニ係ル處千葉健之助ノ地所賣約證書ノ日付ニ亡健之助カ生存中ナリシヤ否ヤノ事實ハ私書偽造罪成立ニ于テ必要ナルニモ拘ハラヌ原院ハ此點ノ事實理由ヲ明示セシテ概ク私書偽造行使罪ヲ成立ラ認メタルハ違法ノ裁判ナリト云フニ在リ依テ原判決ヲ閱スルニ前略亡千葉健之助ノ相續人同苗東四郎ヲ欺罔シ其所有地ヲ騙取セント企圖シタル云々清男執筆ニテ明治廿年四月付ノ千葉健之助ヨリ被告平七ニ宛テタル云々地所賣買約定證書一通ヲ作成シ云々前記偽造證書ヲ東四郎ニ示シ以テ實價金三百圓程ノ東四郎所有地ヲ騙取セントシタルモ云々トアリテ右地所賣約證書偽造ノ當時ハ健之助ハ已ニ死亡シタルコトヲ認メタルコト明ナレハ其偽造證書ノ日付ノ當時ハ同人ハ生存中ナリシ事實ヲ確認セサルカラス如何トナレハ死者ノ名義ヲ以テ作成シタル證書ハ其日付カ生存中ニ係リ初メ多ク偽造罪ノ成立スルモノナレハナリ然ルニ原判決中偽造證書ノ日付ノ當時ハ健之助生存中ナリシヤ否ヤノ事實ヲ認メテササルヲ以テ原判決本論旨ノ如ク緊要ナル事實理由ヲ付モサル不法アリテ全部破毀ヲ免レサルモノトス已ニ此ニ點ニ於テ原判決ノ全部ヲ破毀スヘ

私印私書偽造詐欺取財事件

偽造事件

其理由アリト認ムル已上ハ爾余ノ上告論旨ハ一々説明スルノ要ナシ
右ノ理由ニ依リ刑事訴訟法第二百八十六條ノ規定ニ從ヒ判決スル左ノ如シ
原判決ノ全部ヲ破毀シ更ニ重判セシムル爲メ本件ヲ東京控訴院ニ移送ス

明治廿九年一月十四日大審院第一刑事部公廷ニ於テ檢事岩野新平立會宣告ス

裁判長 判事 三好 退藏 判事 岡村 爲藏

同 永井岩之丞 同 川目 亨一

同 龜山 貞義 同 伊藏 悌治

同 十時 三郎

判決要旨

被告人は單純窃盜罪に付控訴し檢事は門戸牆壁を踰越損壞せる窃盜罪
なりとして附帶控訴すると雖裁判所は更らに被告人に對し反證提出の
告知を爲すを要せず

說明

門戸牆壁を踰越損壞して犯したる窃盜罪は單に罪様を異にせる窃盜たる
に過ぎず詳言すれば單純窃盜と分離して特に具備せる成立條件を有する
犯罪にあらずして單に窃盜罪中に附加せる一事實に過ぎざるあり故に當
該犯罪に付審理したる事實の結果に依り付帶控訴せるは相當にして裁判

窃盜事件

明治廿八年十一月廿七日東京控訴院ニ於テ右子之吉ニ對スル窃盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ
原判決ヲ取消シ更ニ被告子之吉ヲ重禁錮八月ニ處シ監視六ヶ月ニ付ス假下ニ係ル現在ノ贓
品ハ其儘被害者ニ還付ス被告人ノ控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ハ上
告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

被告 人 長 山 子 之 吉

明治廿八年十一月廿七日東京控訴院ニ於テ右子之吉ニ對スル窃盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ
原判決ヲ取消シ更ニ被告子之吉ヲ重禁錮八月ニ處シ監視六ヶ月ニ付ス假下ニ係ル現在ノ贓
品ハ其儘被害者ニ還付ス被告人ノ控訴ハ之ヲ棄却スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ハ上
告ヲ爲シタリ因テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處

上告趣意書ノ要旨ハ刑事訴訟法第二百五十八條ニ依リ控訴裁判所ノ裁判ニ付テハ地方裁判
所ノ第一審ニ關スル規定ヲ適用スヘキモノナレハ原院ハ公廷ニ於テ先ツ檢事公訴ノ趣旨ヲ
聽キ然ル後被告人控訴ノ趣旨ヲ聽クコトヲ爲サスシテ直ニ被告人ノ訊問ヲ爲シタルハ不法
ナリト云フニ在レトモ刑事訴訟法第二百八十八條ハ第一審裁判ノ手續ニシテ控訴ノ裁判ニ適
用スヘカラサルモノトス何トナレハ控訴ノ場合ニ於テハ控訴人ヨリ先ツ其趣旨ヲ陳述スヘ
キハ當然ノ手續ナレハナリ而シテ本件控訴ノ申立人ハ被告人子之吉ナルヲ以テ原院カ檢事
ノ陳述ニ先ツ被告子之吉ノ取調ヲ爲シタルハ相當ニシテ毫モ違法ノ廉アルコトナシ辯護士
高木益太郎上告趣意書第一點ハ本件ノ逮捕告發調書ニ依レハ長山午次郎方ニ窃盜忍ヒ
入りテ米麥ヲ窃取シタルハ明治廿八年八月廿六日ノ夜ニシテ其後同月三十日巡查九名ヲ搜
査處分ニ假リ被告宅へ臨ミタル上不法ニモ被告及ヒ被害者ヲ取調ヘタル結果初メテ被告宅
窃盜事件

内ニ存在スル玄米小麥等ヲ窃盜品ナリト認メ直ニ被告ヲ逮捕シテ窃盜事件ノ告發ヲナシタル事跡歴然タリ如此場合ハ之ヲ現行犯又ハ準現行犯ナリト云フヘキモノニアラスルハ廿八年七百二十二號判例參照)左スレハ警部ノ作リタル逮捕告發調書ハ適法ノ成立ニテアラサルヲ以テ斷罪ノ資料トナスコトヲ得サルナリ然ルニ原院カ採テ有罪ノ證據トナシタルハ不法ナリト云フニ在リ依テ案スルニ本件ハ巡查郡司寅五郎外二名ニ於テ被告子之吉カ所持スル玄米及小麥等ノ不正品タルコトヲ探知シタルヨリ被告人ノ宅ニ到リ其承諾ヲ得テ之ヲ被害者ニ示シタルニ被害者ニ於テ盜難品ニ相違ナキ旨申立タルヲ以テ乃チ之ヲ贓品ヲ携帶シタル准現行犯ニ當ルモノトシ直ニ被告人ヲ逮捕シテ告發ヲ爲シタルモノナルコトハ警部上川名源五郎カ調成シタル告發調書ニ明カニシテ此事實ハ其現行犯ニ相當スルヲ以テ從テ右告發調書カ正當ノモノナルコト論ヲ俟タス而シテ明治廿八年本院第七二三號本件ノ判決ハ其判文ニ(前略)此事實ニ依レハ則巡查カ搜查ノ末被告庄太郎カ多額ノ金錢ヲ他ニ預ケタル現ニ六圓許ノ金圓ヲ所持スルコトハ傳聞ニ依テ確メタルヨリ其居宅ヨリ同人ヲ引致シタルモノナルニ付云々トアリテ巡查ハ單ニ傳聞シタル迄ニシテ實見シタルニテアラザレハ固ヨリ本案ノ場合ト其趣ヲ異ニスルヲ以テ探テ本案ノ上告理由ト爲スヲ得ズ第三點ハ第一審判決ニ於テハ被告ヲ通常窃盜ノ犯人トシテ處斷シ之ニ對シ原院檢事ヨリ被告ノ所爲ハ刑法第三百六十八條ノ窃盜六ルヲ以テ第一審裁判ハ事實認定及法律適用上ニ誤判アリトノ附帶控訴ヲ爲シタルニ此附帶控訴タル被告ノ主タル控訴ニ依テ證據調定シ檢事ノ辯論中ニ申

四十九

判決要旨

被告人の疾病に因るにあらすんは縱令五日以上辯論を停止するも新に口頭辯論を爲すを要せず

說明

窃盜事件 窃盜事件

立テラレタルモノニ係ル是故ニ原院ハ更ニ附帶控訴ノ點ニ對シテ被告ニ反證提出ノ告知スヘキ筈ナルニ此告知ヲナサシテ概ク結審ノ上附帶控訴ヲ採用シタルハ違法ナリト云フニ在レトモ刑法第三百六十八條ノ門戶牆壁ノ踰越損壞云々ノ事ハ固ヨリ窃盜罪以外別ニ成立スル犯罪ニアラスシテ窃盜罪中ノ事實タルニ過キサルモノナレハ原院檢事ニ於テ窃盜罪ニ付テノ事實及證據取調ノ結果ニ依リ本件ノ附帶控訴ヲ爲シタルハ相當ノ時機ニシテ裁判所モ爲メニ重テ反證提出ノ告知ヲ爲スノ必要ナシ故ニ原判決ハ審理手續ニ付キ違法アルコトナシトス因テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ

四十九

明治廿九年一月十六日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事應當融立會宣告ス

- 裁判長 判事 原田種成
- 判事 長谷川喬
- 同 島田正章
- 同 木下哲三郎
- 同 昌谷千里
- 同 柳田直平
- 同 津村 董

刑事訴訟法第八十三條第二項に曰く辯論に取掛りたる後被告人精神錯亂したるときは其全癒の後新に辯論を爲すへし其他の疾病に罹るときは痊愈の後前に停止したるより以後の手續を爲すへし但五日間辯論を停止し又は檢事其他訴訟關係人の請求ありたるときは新に辯論を爲すへしと規定せりされは此の但書に於ける五日間辯論を停止したるときは新に辯論を爲すへしとの法意は即ち前段の文意を受けたるものなるを以て若し疾病により辯論を停止したるものにあらざるときは新に口頭辯論をなすへきにあらざるなり

窃盜事件

明治二十八年第一四八〇號
明治二十九年一月廿日判決

被告人 阿部 八太郎

明治廿八年十二月二日東京控訴院ニ於テ右八太郎ニ對スル窃盜被告事件ノ控訴ヲ審理シ原判決ヲ取消ス被告ヲ重禁錮十月監視六月ニ處ス押収ノ物件中杉丸太十八本杉板廿五坪ハ被害者ヘ其他ハ各差出人ヘ各還付スト言渡シタル判決ヲ不當トシ被告ヨリ上告ヲ爲シタリ依テ刑事訴訟法第二百八十三條ノ定式ヲ履行シ審理スル處
上告趣意ハ被告ハ被告所有ノ地所所内ニ於テ杉木ヲ伐採シタルモノナルニ原院カ官有地ニ於テ盜伐シタルモノト判決シタルハ不法ナリト云フニ在レトモ原院カ判決ニ明示スル諸般ノ證據ニ依テ事實ヲ認定シタルモノニシテ不法ノ廉アルコトナシ畢竟本論旨ハ裁判官ノ職

權ニ屬スル事實ノ認定ヲ批難スルニ過キササルヲ以テ上告ノ理由ナシトス辯護士松田道夫高木益太郎上告趣意辨明書第一點ハ五日以上口頭辯論ヲ停止シタル時ハ其審理ヲ更新スヘキモノナリ然ルニ本件ニ付原院ニ於ケル第一回ノ辯論ト第二回ノ辯論トノ間五日以上之を停止シタル事跡アルニ原院ハ其審理ヲ更新セスシテ辯論繼續ノ儘判決ヲ下シタルハ口頭辯論ノ定則ニ違反シタル裁判ナリト云フニ在リ依テ案スルニ刑事訴訟法第八十三條第二項後段ニ但五日間辯論ヲ停止シタルハ新ニ辯論ヲ爲ス可シトアルハ其前段其他ノ疾病ニ罹ルトキハ痊愈ノ後前に停止シタルヨリ以後ノ手續ヲ爲ス可シトアル文詞ヲ受ケ疾病ニ罹リ五日間辯論ヲ停止シタル場合ノ規定ト解釋スヘク而シテ本件ニ付テハ疾病ニ依リ辯論ヲ停止シタルニアラサルコト訴訟記録ニ明ナルヲ以テ原判決ハ審理手續上違法アルコトナシ
第二點ハ原判決ノ事實理由ニハ(前畧同日頃右官林ノ杉立木十七本代價五圓以上ヲ伐採セリ)トアレトモ立木ノ伐採ノ事ヲ以テ直ニ窃盜已遂ト目スヘキモノニアラス然ルニ上告人ヲ窃盜已遂ノ教唆ヲ以テ處斷シタルハ不法ニシテ原判決ハ事實ノ理由ヲ欠キタル瑕瑾アルモノナリト云フニ在レトモ窃取ノ目的ヲ以テ立木ヲ伐採シタリト判示シタル上ハ窃盜未遂ノ事實ハ已ニ充分スルヲ以テ原判決ハ理由不備ノ瑕瑾アルモノニアラス依テ刑事訴訟法第二百八十五條ニ從ヒ判決スルコト左ノ如シ
本件上告ハ之ヲ棄却ス

明治廿九年一月廿日大審院第二刑事部公廷ニ於テ檢事岩田武儀立會宣告ス

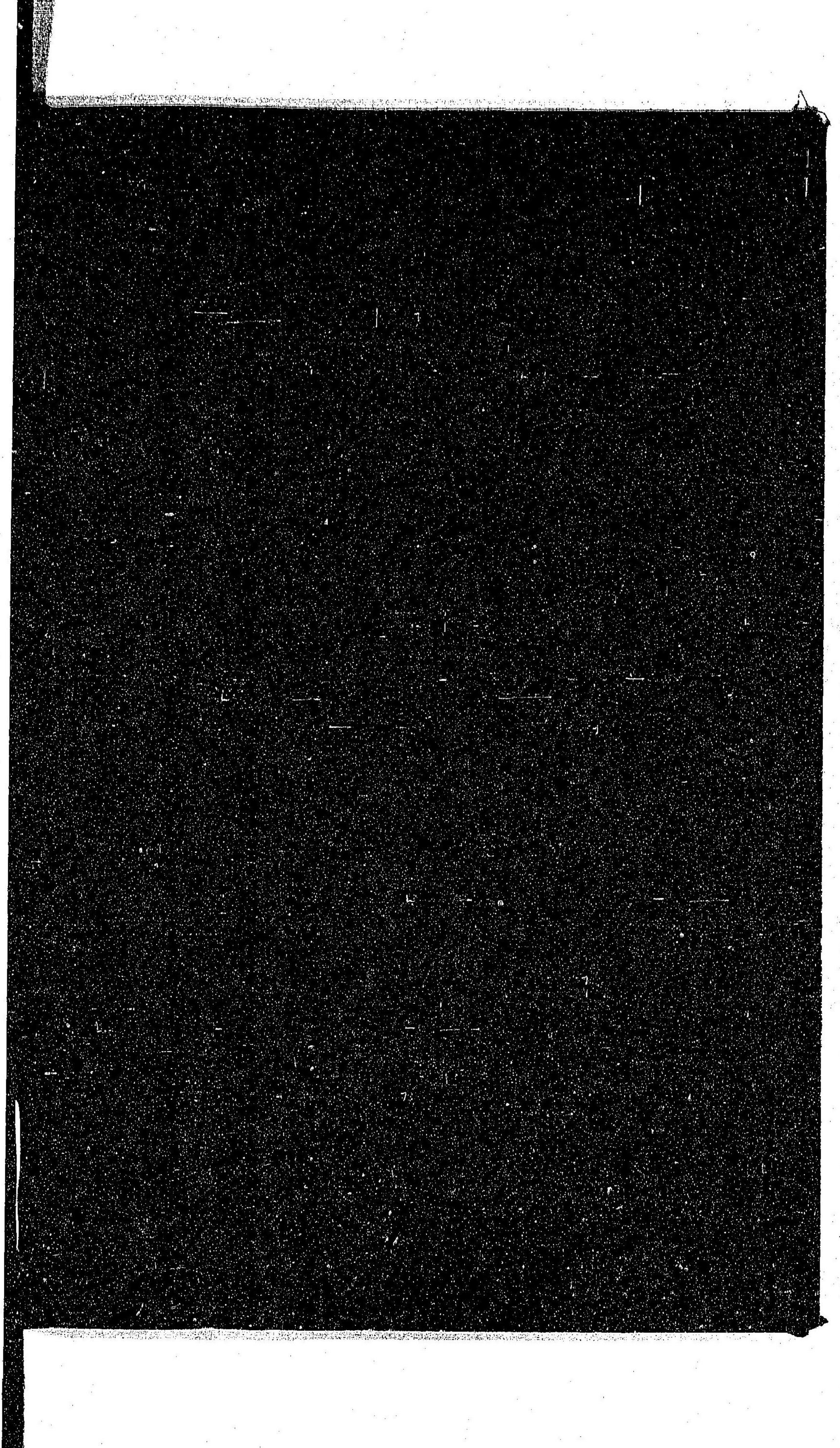
窃盜事件

例判事刑卷五第報量例判

裁判長 判事 原田種成
同 島田正章
同 木下哲三郎
同 津村 董
判事 長谷川喬
同 昌谷千里
同 柳田直平

二百十八

121



21
107

禁電子式複写

